

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	姉妹都市学生交流事業	所管	市民経済部 コミュニティ推進課
			Tel 2998-9083

事業の目的 (何の為に 行うか)	派遣先の各姉妹都市で、ホームステイにより、海外の異文化を直接体験することで国際社会に対応する力を養わせる。また、国際感覚豊かな人材を育成する。
------------------------	-------------------------------------------------------------------------

対象 (誰を、何を 対象として いるか)	米国・ディケイター市については、海外派遣を希望する市内在住の高校生、韓国・安養市については、同じく海外派遣を希望する市内在住の高校生・短大生・大学生及び市内在住でホームステイ受け入れに関心のある家庭。	対象とした数	29	件
		実際に 利用した数	22	件

活動の内容	(何を したか)	派遣学生は、米国・ディケイター市、韓国・安養市の一般家庭に1～2週間ホームステイし、生活習慣や文化を学ぶ。受け入れ家庭は、ディケイター市・安養市からの学生をホームステイで受け入れし、日本の文化に触れさせ、所沢での生活体験を通して交流を深める。学生が、両姉妹都市を訪問することにより、単なるホームステイの相互交流事業ではなく、姉妹都市としての親睦をさらに深めるものとする。											
		活動実績	項目名	高校生派遣(ディケイター市・安養市)	8	単位	人	項目名	高校生受け入れ(ディケイター市・安養市)	14	単位	世帯	項目名

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	3,271	2,342	5,818	17.2

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	派遣学生の帰国後の国際交流事業への参加率	高校生派遣経験者(前年度以前の者も含む)で国際交流事業へ参加した人数	13	14	107.7
			単位 人	単位 人	単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 []				
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止				
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了				

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合 評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 [] 終了				
	予算	現状どおり 増額 減額 終了				

平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名	事業コード	担当	部課コード	030100	TEL	2998-9083
030121	姉妹都市学生交流事業	市民経済部	コミュニティ推進課			
開始年度	平成 3 年度	→	終了年度	平成 年度		

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	<input type="checkbox"/> 法定受託事務	<input type="checkbox"/> 法定受託+附加	根拠法令				
	分野別計画・指針	所沢市海外都市学生交流実施要綱 所沢市海外都市交流補助金交付要綱							
	関連・類似事業								
	総合計画の体系	政策	第7章 人々がふれあう温かいまち	施策	5節 国際化社会	中柱	3 国際交流活動の促進	小柱	(1) 姉妹都市等との交流

概要	H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 42 位		実施計画における位置づけ… H19 ○ H20 ○			
	行政改革大綱における行動計画への位置づけ					
	コード	1111	市民の知りたい情報の提供	コード	1311	ユニバーサルデザインの推進
	事業開始の背景	青少年に国際感覚を身につけさせ、国際社会に対応する人材を育成することを目的に、姉妹都市交流事業の一環として、平成3年から米国・ディケイター市、平成11年から韓国・安養市との高校生の相互交流を始めた。				

③事業の内容	目的(何のために行うか、具体的に)	派遣先の各姉妹都市で、ホームステイにより、海外の異文化を直接体験することで国際社会に対応する力を養わせる。また、国際感覚豊かな人材を育成する。						
	対象(誰を、何を対象としているのか)	利用数の考え方						
	派遣学生・受け入れ家庭数の応募数	派遣学生及び受け入れ家庭数の応募数						
	対象数	単位	平成 18 年度	24 件	利用数	単位	平成 18 年度	23 件
			平成 19 年度	29 件			平成 19 年度	22 件
	事業の具体的な内容及び実施方法							
	派遣学生は、米国・ディケイター市、韓国・安養市の一般家庭に1~2週間ホームステイし、生活習慣や文化を学ぶ。受け入れ家庭は、ディケイター市・安養市からの学生をホームステイで受け入れし、日本の文化に触れさせ、所沢での生活体験を通して交流を深める。学生が、両姉妹都市を訪問することにより、単なるホームステイの相互交流事業ではなく、姉妹都市としての親睦をさらに深めるものとする。							

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	最終評価	<input type="checkbox"/> 一次評価	<input type="checkbox"/> 二次評価
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])		
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了		
	平成19年度中に改善した点			
	米国・ディケイター市への派遣学生については、相手方の姉妹都市委員会からの要請により、1日でも多いホームステイの希望があることから、往路のシカゴ泊を省略し経費の削減に努めた。20年度においては、復路のシカゴ泊もなく予定である。			

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		3,285	3,271	3,164
	決算(見込み含む)		2,848	2,342	
	(嘱託職員) (臨時職員)	(人) (人)	(人) (人)		
	正規職員人件費	0.15 人	1,380	0.37 人	3,476
	公債費				
	事業費合計		4,228	5,818	
	財源内訳	一般財源	4,228	3,271	3,164
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
	市民一人当たり(単位:円)		12.5	17.2	
	利用数一単位あたり(単位:円)		183,826.1	264,444.5	

⑥指	活動実績	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標	
		高校生派遣(ディケイター市・安養市)	派遣学生数	人	10	8	10	10	
		高校生受け入れ(ディケイター市・安養市)	受け入れ家庭数	世帯	13	14	16	16	
	成果分析	派遣学生の帰国後の国際交流事業への参加率	高校生派遣経験者(前年度以前の者も含む)で国際交流事業へ参加した人数	人	目標値	13	13	13	
				%	実績	7	14	突精値の拡大を図る1	1
				%	達成率	53.8	107.7	突精値の縮小を図る2	

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価	
	対象設定	事業の対象を見直す必要性	実施主体	現在の実施主体	見直しの必要性
		<input type="checkbox"/> 対象を絞る <input checked="" type="checkbox"/> 対象を拡大する <input type="checkbox"/> 見直しの必要なし		市	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合	受益と負担の関係	受益者負担の有無	見直しの必要性
<input type="checkbox"/> 統合する <input type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業がない <input checked="" type="checkbox"/> 統合等必要なし		<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
明らかとなった課題	国際感覚のある人材を育成する事や、国際交流を通じ異文化を体験し、理解する事は日本の文化を再認識する事に役立っている。応募人数の減少が課題であったので、昨年に引き続き市内高校へPRをすると共に、市内中学校に通学する生徒の姉妹への周知を行った。募集状況にばらつきがある。特にディケイター市は定員に達するが、安養市は定員に満たない傾向がある。				
⑧二次評価	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)		
	平成20年度における目標設定	派遣学生・受け入れ家庭の募集方法の検討	派遣学生・受け入れ家庭の定員が目標に達しないため、その募集方法について検討する。	平成21年3月	
平成21年度における事業の方向性					
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ (<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [])				
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了				
評価理由	長期化、国際化する現代社会の課題解決には、将来を担う若年層を対象に、国際感覚のある人材を育成する事が、重要であることから事業の方法については改善を進めながら継続する必要がある。				
評価日	平成20年5月13日	記入者職氏名	コミュニティ推進課長 本田静香		

⑧二次評価	一次評価	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由	評価日						
⑨評価	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
		見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
		市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業	
		評価理由	評価日					

⑨評価	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し		計画コード	
	⑨個別計画における方向性	施策の体系	施策の方向		
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り		計画コード	1161
	基本目標	1子どもたちがたくましく生きていくための力を伸ばします			
主要課題	1子どもたちの知識・能力の育成				
施策の方向	6国際感覚の育成				